

隊友 船橋だより

平成26年5月号

発行：千葉県隊友会 船橋支部事務局

去る4月23日千葉県隊友会通常総会に於いて、支部行事の協力参加や新聞手配り作業支援など積極的な活動の功績により表彰された「船橋支部薬円台分会長瀧健治氏」「船橋支部前原分会石井征二氏」の二名。（下の写真左）千葉県護国神社春季例大祭清掃ご奉仕の小室豊富分会長河野氏、々会員村上氏、薬円台分会長瀧氏、北部理事丸山氏、事務局長岡本。（下の写真右）



千葉県護国神社春季例大祭交通整理ご奉仕の副支部長門脇氏、東部理事堀内氏、豊富分会長河野氏、高根分会長築山氏、青木氏。（下の写真左）

奉鼻に監査役神谷氏と薬円台分会の笹野氏（下の写真右）



秋季例大祭（10月6日清掃、10日交通整理予定）は、他の会員の方も御協力宜しくお願いします。

春の危険業務従事者叙勲は西習志野分会：鎌田秀夫 船橋市芝山7-37-1が受賞されました。
心からお祝い申し上げます。

富士総合火力演習見学会を予定しています。日時未定、確定後案内します。ご期待ください。
船橋支部通常総会は8月予定。開催日時場所決定後ご案内しますので多数のご参加をお願いします。

安藤会員、防災講話で熱弁

安藤正一会員は、陸上自衛隊北海道札幌市真駒内駐屯地司令を最後に平成25年4月退職、同時に船橋市市長公室危機管理監として勤務中のことは「ふなばし再発見！！マガジン」j a n u a r y 2014:1月号等でも掲載されていますのでご存知のとおりですが、住まいは八千代市、勤務が市役所ということで船橋支部会員の一人になっております。

補職から1年が経過しましたが、市内各地で防災講話、津波ハザードマップの作成、防災計画の見直し、指導等精力的に行っています。

このことで去る4月7日松が丘公民館において社会福祉協議会行事の際に防災講話をお願いしたところ、約1時間半にわたり地区の高齢者及びボランティア88名に対し講話を行って頂き、「大変勉強になった。早速家具の転倒防止等やらなくては！」等感謝の声がありました。

安藤会員は、東日本大地震当時は東北方面隊監察官として勤務中であり、大変悲惨な状況を目の当たりにしたこと、災害時の教訓、自助・共助。公助等について分かり易く独特の話しかけながら和やかに、時には熱のこもった指導もちらもら“

講話は市内小中学校長、PTAの役員、商工会議所の役員、ライオンズクラブの会員などには行っており市民の防災意識の高揚に精力的に活動中です。管理監としては、地域情報が必須であり、市内居住の支部会員にはこれを期待しています。



大穴の7勇士碑の草刈り清掃と供養について、下記の通り実施します。お近くの方はご協力をお願いします。

記

実施時期：平成26年6月25日(水)

9時半から11時半

雨天の場合は26日になります。

詳細は、副支部長 門脇茂にお問い合わせください。

携帯電話番号090-8503-7912

以上

中国・韓国と日本 (資料:美浜区の戸室氏5月から連載)

毎年8月15日になると「中国・韓国」と日本は宿命なのか、繰り返される歴史認識問題

1. 中国及び韓国から見た日本

(1) 中国から

小国日本は、遠い昔から文明の進んだ中国に遣隋使・遣唐使を送って朝貢を行って来た。中国文明を吸収することで、現在の日本文化の基礎を築き上げたのだと、彼らは優越感を持っている。

(2) 韓国から

高度な文化が栄えていた三国時代(百済・新羅・高句麗、4～7世紀)に対し、日本は未開の野蛮国だった。その日本に高度な文化を伝え、日本を発展させてやった。

2. 学校教育

(1) 中国

共産党を愛せよ、資本主義はいかに恐ろしいか、毛沢東語録を覚えよ。

(2) 韓国

反共教育(反北朝鮮教育)と反日教育

(3) 日本

戦後教育は、伝統文化、伝統精神、伝統的価値観を否定するような教育、即ち国家を否定するような教育であった。戦前の日本はいかに悪いことをしたかという観点で書かれていた。自分たちがいかに悪いことをしたかを内容とする自国教科書は日本だけである。

(4) 歴史教育

ア. 中国

第1段階

古代の中華民族：いかに素晴らしかったかと、いろいろなものを発明し、世界中がその恩恵を受けた。世界のいいところはみんな中国から得たものだ。

第2段階

受難の歴史：中国はいかに帝国主義から侵略されたかを一番多く記述されている。しかも、その中で最も悪いことをした国は日本だと書かれている。

第3段階

民族の復興：中国はなぜ民族復興を成し遂げることができたか、それは、共産党があったからである。

結論：中国人民と共産党が一体となり、民族の復興をさらに立派に果たしていくことが歴史上の使命である。

イ. 韓国

過度の民族中心的、単一民族や血統などを強調し、他民族をけなす記述が多い。中国との関係については、中国を宗王国とするが、中国の臣下にあったことは教えていない。日本との関係については、未開の野蛮国だった日本に高度な文化を伝え発展させた。しかしその恩恵を忘れて、中世では豊臣秀吉が侵略して国土を荒廃させた。

韓国の近代史は、反日的ではあるが民主主義の傾向にある。日清戦争から日露戦争へ、日韓併合への流れも、韓国=善、日本=悪とした構図である。韓国は一度も他人に迷惑をかけたことはなかったし、他国を攻めることもなく平和を愛する善の民族であった。それに比べると日本は正反対の国と教えている。

ウ. 日本

ある高校生、近代日本史の授業が始まると「ああ、また日本の悪口か」と呟いたという。これは戦後教育がどうであったかを示している。つい最近まで、学校で日本人が日本国家に嫌悪感を持つように仕向けられた歴史教育が行われた。今でも学校の入学式・卒業式で「国歌・君が代」に反対する先生がいる。

3. 言論の自由・マスコミ

(1) 中国

中国は言論の自由以前の問題で、中国には正しい意味でのマスコミはない。中国のマスコミは政府の宣伝道具にすぎない。新聞・テレビ・ラジオも中国共産党の宣伝道具である。中国の宣伝メディアは単に嘘をつくのではなく、その嘘に価値観を作り、あらゆる嘘を並べて空想の価値を作り上げる。

(2) 韓国

対日・対米とか対外的な問題についての言論では、極めて挙国一致が起きる。反対意見をいおうものなら愛国心がない、売国奴だと非難される。

韓国では、テレビのホームドラマの中で、誰々がとんでもなく悪いヤツだという表現するのに「あいつは日本人と同じように悪い」という言い方がある。

(3) 日本

日本が一番「言論の自由」のある国である。特に政治的権力との関係でも自由である。しかし、日本のマスコミはいろんなことに批判はするが、日本には世界のどこにも見られない美風といったものが多くあるが、これらを積極的に評価することが少ない。

(4) 帰化した2人・中国人(石平)と韓国人(呉善花)が驚いた日本の言論の自由

彼らが来日した当時、マスメディアが政権批判を公然とするのを見てビックリした。それは、もともと「日本人という人種は心から反省しない民族だと教え込まれてきた」。日本のマスコミは自由にモノをいう。堂々と政権を批判もするし、どんな権力がある者に対しても、おかしいと思ったことには厳しく批判する。

一方、中国・韓国のメディアは権力のある者から金銭をもらって、その権力の都合のよい話を書き、流す。批判することは当局に弾圧され、拘束・軟禁されたりする。